

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	9 成績評価・修了認定
中項目	
小項目	9.0.1 厳格な成績評価基準の設定・開示
要素	厳格な成績評価基準が適切に設定され、事前に学生に開示されていること。
小項目	9.0.2 成績評価の厳格な実施
要素	成績評価が、成績評価基準に従い厳格に実施されていること。
小項目	9.0.3 成績評価に対する異議申立手続
要素	成績評価に対する学生からの異議申立手続が規定されており、適切に実施されていること。
小項目	9.0.4 修了認定基準等の設定・開示
要素	修了認定基準、修了認定の体制・手続が適切に設定されていること、及び修了認定基準が適切に開示されていること。
小項目	9.0.5 修了認定等の適切な実施
要素	修了認定が、修了認定基準及び所定の手続に従って適切に実施されていること。
小項目	9.0.6 修了認定に対する異議申立手続
要素	修了認定に対する学生からの異議申立手続が規定されており適切に実施されていること。

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 平均がGPA 2.5を超える科目をなくす。	→ GPA 2.5を超える科目数ならびに科目数の割合。	D	C	C	B	B
2. 法律基本科目ならびに実務基礎科目のすべての必修科目と選択必修科目について、中間試験と定期試験の講評会実施を制度化する。	→ 中間試験と定期試験の講評会未実施科目数。	B	B	B	B	A
3. 全科目における採点基準の整備。	→ 採点基準を明示した科目数	C	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教務関係委員会を中心に検討を重ね、教授会及びカリキュラム委員会において厳格な成績評価方法について議論を重ねた。成績評価に関する申し合わせ事項の一つとして、成績の平均が70点前後(GPA2.0)になるよう努めることを挙げ、出講案内時及び成績評価依頼時の2回にわたって授業担当者には伝えている。成績発表時に科目毎に成績分布も公開している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 継続的な注意喚起の効果があり、成績評価の際の注意事項として教員の認識は高まっており、GPA2.5以上の科目は減少傾向にあるが、全廃までには至っていない。課題としては、10人以上履修者のいる授業が減少しており、少人数授業において本目標は適さないことと、指標に沿うように無理やり成績評価することに関しては議論の余地があることである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 厳格な成績評価を行うことについては全員の認識が一致しているが、その方法論としてどのような基準を設定することがふさわしいのかについては引き続き議論を進める。その結果について成績評価に反映できるよう、授業担当教員に対して丁寧に説明することを考えている。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教務関係委員会を中心に、教授会及びカリキュラム委員会で検討を重ねた。定期試験講評会については、制度開始以降、実施方法や実施時期など試行錯誤を繰り返し、学生の参加促進に向けた取り組みを続けている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 中間試験については特定の講評会期間を設定していないが、授業実施期間中であるので、採点が終わり次第、授業中等に講評を実施している。定期試験については特定の講評期間を設け、時間割編成を行ったうえで学生には事前に周知している。課題は、学生の参加数が当方の期待を下回っていることである。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学習効果を高めるためには、試験後に講評を聞いて間違っポイントを確認することは必要不可欠だと考えているが、学生はそのことを十分に理解していない。学生の認識をあらためるためにも、授業時などを利用して日常的に本取組の重要性を理解させる取り組みが必要だと考えている。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教務関係委員会を中心に、教授会及びカリキュラム委員会で検討を重ねたが、全科目で実施するという結論には至っていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 法律基本科目および実務基礎科目の必修科目については講評会を実施しているので、講評会の際に学生に対して明示している。その他の科目については、一部の科目については掲示による成績評価基準の発表を実施するケースもあるが、全科目ではない。課題としては、採点基準の公表に適する授業科目が何であるかを検討すべきことである。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ロースクール教育の根幹をなす授業科目を中心に、引き続き採点基準を明示し、何が重要なポイントであるのかを学生に理解させるようにしたい。また、公表対象科目について検討を進める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆